

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 9 月 17 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01025

研究課題名（和文）アジア太平洋地域の学生交流促進に向けた実証的研究 - UMAPの活性化をめざして -

研究課題名（英文）The Role of University Networks in Student Mobility in Asia and the Pacific &#8211; Aiming to Broaden the Impact of UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific) &#8211;

研究代表者

高橋 一男 (Kazuo, Takahashi)

東洋大学・国際学部・教授

研究者番号：70206796

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 31,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではマレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなどアジア太平洋地域における学生と人材交流、政策課題に焦点をあて、各国専門家や実務家を対象に総合的な調査をおこなった。この成果はAshizawa, S., Neubauer D. (2023)においてまとめて発表している。

さらに本研究では、新型コロナ禍の状況下において、新型感染症の影響下における新たな教育交流モデルについて、専門的見地からの分析をおこない、それを多くに国際教育交流の実務家の間で、リアルタイムで共有した。こうした分析の成果が、UMAPを基盤に新しい教育交流モデルの提案につながり、プロトタイプが提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は新型コロナ禍という想定外の状況に直面し、当初計画にはなかった調査、分析をすることになった。緊急Webinarを実施するなど、新型感染症の影響下における新たな教育交流モデルについて、専門的見地からの分析をおこない、それを多くに国際教育交流の実務家の間で、リアルタイムで共有することができた意義は大きい。新しい教育交流モデルを提示したことも本研究の成果である。この一連の取り組みを通じて、UMAPを基盤にプログラムのプロトタイプが実践されることになったが、実際に新たな教育交流の価値・概念の創造に貢献したことが疑いない。国際教育夏季研究大会（SIIIEJ）などを通じた成果発表も活発におこなわれた。

研究成果の概要（英文）：In this research, our research team focused on student and labour mobility, human capital, and related policy issues in the Asia-Pacific region. We have conducted a comprehensive survey and interviews in Malaysia, Thailand, the Philippines, Australia and Japan with experts and practitioners in the area of international education. The results of those research are summarized in the following publication. (Student and Skilled Labour Mobility in the Asia Pacific Region: Reflecting the Emerging Fourth Industrial Revolution (2023), Palgrave Macmillan, ISBN: 978-3-031-16065-3)

Furthermore, in this research, under the circumstances of the COVID-19, we analyzed new model of educational exchange by working with experts in various countries. The outcome of those research was shared in real time with wider audience at various webinars. Also, these analyzes have been utilized for developing new educational exchange models in Asia and the Pacific.

研究分野：社会学・地域社会学

キーワード：比較教育 国際教育交流 国際教育 高等教育

1. 研究開始当初の背景

大学間における学生流動化を実現した先進的なモデルとして、欧州域内の「エラスムス計画」がある。欧州の高等教育改革「ボローニャ・プロセス」が推進される過程でエラスムスは発展し、ECTS (European Credit Transfer System) という単位互換制度が推進され、欧州各国において異なる教育システムで学んだ学生の学位・資格・成績を認証する基盤が確立した。一方、アジア太平洋地域の学生交流ネットワークとしては、アジア版エラスムスをめざして設立された UMAP (アジア太平洋大学交流機構) のほか、ASEAN 大学ネットワーク (AUN)、マレーシア、タイ、インドネシアを軸とする AIMS (ASEAN International Mobility for Students Program)、メコン流域大学連携をめざす GMS-UC などが存在する。しかし、これらの取り組みが欧州の「ボローニャ・プロセス」「エラスムス計画」のような大きなインパクトを生み出さず、国境を越えた学生の流動化に十分に寄与してこなかった。

本研究では、克服すべき課題として、以下の3つをとりあげた。アジア太平洋地域では、国家レベルの高等教育政策と大学の国際戦略との間に必ずしも連携が見られず、大学間ネットワークが機能するためのガバナンスを欠いている。アジア太平洋地域では、欧州のチューニングのように、学習成果を比較参照する段階には至っていない。UMAP では主要加盟国において UCTS (UMAP Credit Transfer System) を推進しているが、加盟国の大学間の単位互換は、学習時間を主たる根拠にしており、欧州のように学習成果や成績基準に関する共通プラットフォームを形成する段階にはない。学習時間に加えて、学習成果や成績評価基準に関する共通プラットフォームを構築していく必要がある。AUN や AIMS など東アジアや東南アジアのネットワークの取り組みが、限られた地域、特定の大学に資源を集中する形で展開されている点である。南アジア、オセアニア、さらには中南米などを含め、アジア太平洋全域をカバーする地域間学生交流ネットワークの構築と質保証を伴った学生交流推進が期待されている。

本学が主たる研究対象とする UMAP は、非欧州圏における広域学生交流ネットワークを目指し、オーストラリアが呼びかけ、日本、韓国、タイ、マレーシア、フィリピンなどが参加して1991年に発足した。各国に国内事務局を設置し、国際事務局は5年ごとに移動している。2016年から日本が二度目の国際事務局を担当(東洋大学が主幹)していた。日本をはじめ主要参加国政府の支援を受けて発展してきた UMAP であるが、対象国が38カ国であるのに対し、参加国は13国(2016年時点)と伸び悩んでおり、交流ネットワークの構造やシステムに関する分析と見直しが課題となっている。選考研究では、二宮(2008)、黒田(2008)、杉村(2008)、堀田らによって取り扱われ、アジア各国の大学が国民統合と経済発展という国家課題のもとで自国大学の国際化をすすめている現状と、アジア各国における学生移動の特徴を分析してきた。また、堀田(2010)は、ASEAN 諸国と東アジアの13カ国調査、科研費による24カ国調査などを通じ、アジアにおける学生交流と単位互換制度の実情を調査し、欧州エラスムス事業との比較分析をおこなっている。

2. 研究の目的

高等教育のグローバル化に伴い、世界の大学は優秀な留学生の獲得、大学間の学生交流、国境を越えた教育事業などを推進している。アジアでは、UMAP、AUN、AIMS などの大学連携ネットワークが学生交流を促進しているが、欧州のエラスムス計画と比較すると大きな広がりを持っていない。本研究では、UMAP 対象地域(アジア、オセアニア、中南米など)を対象に、学生流動化と人材育成の観点から、大学間連携の課題と将来像を分析する。特に、1の背景で述べたアジア太平洋学生交流の3つの課題に取り組むべく、UMAP 国際事務局を担当する東洋大学を中心に、UMAP の主要対象地域(東南アジア)において質保証と国際通用性を伴った学生交流を拡大していくために、1)政策的課題の共有、2)単位互換や成績評価のための共通プラットフォームの形成、3)南アジア、中南米、オセアニアも包む地域間学生交流ネットワーク構築に向けた共通課題を明らかにし、実現性について提言をおこなうことを目的とする。

この研究を開始した時点では、2020年におこった新型コロナ禍による留学交流の世界的な停止、という事態は予想しえなかった。しかし、この研究プロジェクトは留学交流をさせるインフラについても研究していることから、コロナ禍という厳しい環境下にあっても物理的な留学を代替するような学生交流の手法や概念について研究課題とすることができた。専門的な知見から生み出される提言を活かして、UMAP ならびに国際教育機関において新しいプログラムのプロトタイプを提示することも本研究の目的となった。

3. 研究の方法

本研究では、以下のような方針と方法論に基づいて、研究に取り組んだ。

1) UMAP 主要対象地域である東南アジア(タイ、フィリピン、マレーシア、インドネシア)に加え、南アジア(インド、バングラデシュ)、中南米(メキシコ、エクアドル)そしてオセアニア(オーストラリア、フィジー)を対象として、国家レベルの国際教育政策と大学の国際戦略との

間にどのような連携があるか、を分析する。SEAMEO-RIHED(東南アジア教育大臣機構)が質保証などにかかわる政府間協議をしている例もみられるが、大学機関の運営については個々の政府の意向が強く影響しているケースも多く見られる。地域レベルで政府と大学の連携の実情を調査し、国と大学のガバナンスについて対象国ごとに分析する。これにより、アジア太平洋地域において各国の政策、大学の国際戦略が有機的に連動する可能性を検証し、大学間ネットワークが機能するためのガバナンス・モデルを提示する。

2) アジア太平洋地域、中南米および南アジアにおいて、欧州におけるチューニング・システムに比肩するような、質保証と国際通用性を確保するための共通プラットフォームを導入する可能性を検証する。異なる教育システムの間で、学習時間だけでなく、学習成果を可視化した単位互換・成績評価モデルを提案し、実現性を検証する。UMAP 国際事務局は2016年9月に UCTS Users' Guide を改訂したが、この Guide は単位互換にかかわるガイドラインを提示しているのに対し、成績評価基準、学習成果の比較参照方法については未整備のままである。学習成果の比較検証をおこなうため、学生が自身の学習を記録する媒体として E ポートフォリオを活用する。国際教育分野における E ポートフォリオを使った学習成果分析は、欧米で多くの実績があり、日本でも東洋大学、立命館大学などで取り組まれてきた。アジア太平洋地域においては取り組み事例が少ないため、UMAP 学生交流において E ポートフォリオの実証実験をおこなう。

3) 1) および 2) の実証研究を通じて地域間学生交流を実現するための共通課題を明らかにする。質保証をともなった教育交流を促進するためには、単位互換や成績評価にかかわる共通プラットフォームを構築することが必要である。これに加え、AUN、AIMS、GMS-UC などの既存のネットワークを包括し、南米、南アジア、オセアニアなどを含めたアジア太平洋全域で学生交流をさらに発展させるために、UMAP を基盤としてゆるやかな傘下型ネットワークを形成していくことが有効であると考えられる。アジア太平洋全域を対象とする幅広い大学間ネットワーク構築に向けた課題を分析し、その実現に向けた提言をおこなう。

4. 研究成果

本研究では、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなど UMAP 対象地域における学生と人材交流、政策課題に焦点をあて、ヒアリングを各国専門家に対しておこなった。この成果については、以下の著作においてまとめて発表している。

Student and Skilled Labour Mobility in the Asia Pacific Region: Reflecting the Emerging Fourth Industrial Revolution (2023), Palgrave Mcmillan, ISBN: 978-3-031-16065-3

さらに本研究では、新型コロナ禍の状況下において、以下のような緊急 Webinar を実施し、新型コロナウイルスの影響下における新たな教育交流モデルについて、専門的見地からの分析をおこない、それを多くに国際教育交流の実務家の間で、リアルタイムで共有することができた意義は大きい。緊急連続 Webinar では、最大で 600 名を超える聴衆を集めた。この一連の取り組みが、実際に新たな教育交流の価値・概念の創造に貢献したことは疑いない。

<別表1>

新型コロナウイルスの影響下における学生交流にかかわる緊急 Webinar

	実施日	タイトル	登壇者
第1回	2020年4月20日	コロナ禍における外国人留学生の現状	文部科学省国費留学生協会 (MEXT Scholars Association) Austin Zeng ほか私費留学生3名
第2回	2020年4月24日	外国語教育を遠隔で配信/教授するための教職員向けワークショップ	池田佳子 (関西大学) 古川智樹 (同上)
第3回	2020年5月8日	国際教育のスピリットを取り込もう! Virtual Exchange(COIL)を超短期間でも取り込む手法ワークショップ	池田佳子(関西大学) ドン・バイサウス (同上) エルヴィタ・ウィアシー (同上) サッジャッド・ブルオーミッド (同上) 藤井ミッシェル (同上)
第4回	2020年5月21日	コロナ禍と地球市民教育の課題	堀江未来 (立命館大学) 永田佳之 (聖心女子大学)
第5回	2020年5月27日	Covid-19 and Paradigm Shift of International Education	Deane Neubauer (U of Hawaii) Ka Ho Mok (Lingnan University) Kazuo Kuroda (Waseda University)
第6回	2020年6月10日	How are international partnerships affected by Covid-19?	Cheryl Matherly (Vice President/Vice Provost, International Affairs, Lehigh University, Past President of AIEA) Mirko Varano (KTH Royal Institute of Technology, Sweden) Nopraenue S. Dhirathiti (Mahidol University)
第7回	2020年6月24日	Possible remedies - student mobility in Asia and the Pacific during Covid-19 pandemic	Randall Martin (British Columbia Council for International Education) Chris Ziguras (RMIT) Keiko Ikeda (Kansai University)

本研究は、新型コロナウイルスという想定外の状況に直面し、当初計画にはなかった調査、分析をすることになった。別表2のように新しい教育交流モデルを提示し、UMAPを基盤にプログラムのプロトタイプが実践されることになったが、これらも本研究の成果である。

オンラインによる国際相互履修<コンソーシアム型>

この相互履修では、UMAP参加大学を中心に10大学以上の参加を目指しているが、主な対象となる科目は、英語で開講されるオンライン科目を想定しており、インタラクティブに展開される科目を想定している。また、受け入れ大学は、登録にあたって人数制限や英語力基準を設定できるように準備されており、授業料は原則として相互不徴収となっている。また、UCTSの概念などを導入して、学生にとって不利益とならないよう単位認定ガイドラインを参加大学間で設定する。

オンライン共同授業の開発

既存の科目の中で海外との共同学習をとり入れる。(科目のすべての授業時間を共同に実施するのが困難であることを想定し、15回の授業の中で3回から5回程度の共同プロジェクト(学生によるグループワーク、共同発表など)を取り入れる。例として、共通のテーマをもつ科目を3大学間で提案し、3回から5回程度の学生によるオンラインによる協働プロジェクトを実施することが考えられる。海外研修・海外実習・フィールドワーク科目においても、海外とのオンライン共同学習を実施することでより高い成果が期待できる。

ハイブリッド・プログラムの実施

事前・事後学習をオンラインで実施し、短期対面共同学習の効果を高める。ただし、移動するたびに2週間の自主隔離を求められる現状では、負担が大きくなりすぎるため、コロナ禍の現状においては、現実的な選択肢とは言い難い。

オンライン国際共同プロジェクト(オンライン模擬国連(Model UN)など)

オンライン国際学生会議など、学生主体となる活動を取り入れ、高度な英語力や知識を駆使しておこなう国際共同プログラムを企画、運営する。

<別表2> 新型コロナ禍の影響下における教育交流プログラムの変化

取り組み	概要	メリット
1 オンラインによる国際相互履修<コンソーシアム型>	2020秋～2021年春学期の開講授業に関し、UMAP参加大学などと呼び掛けて、オンラインで提供できる授業を各大学から最低でも5科目程度、提供してもらい、相互に学生が受講できるようにする。授業科目については、学際的テーマを中心に提案するが、各大学の特徴のある授業を加えるなどして、学生に魅力を感じてもらえるようなプログラムにする。	<ul style="list-style-type: none"> ●より多くの選択肢の中から学生は授業を選ぶことができる。海外の学生と協働グループワークに参加することが可能となる。 ●多くの大学ですでにオンライン授業が主体になっており、新たに国外から学生を受け入れることは、参加大学に極端な負担にはならない。大きなコストがかからず、学生にも経済負担にならない。
2 オンライン共同授業の開発	2019年度に実施したUMAP-COILプログラムを参考として、複数の大学の教員が参加し共同授業を展開することを目指す。オンライン共同授業、協働PBLを提案し、学生同士も積極的に交流できるような授業科目とする。まずは、ゼミ、フィールドワーク、プロジェクト系科目など既存の科目の中で海外の大学との共同授業を実現する。海外大学と新規科目を共同開発することが理想だが、新規科目の設置は最低でも1年程度の準備期間が必要であるため、既存の科目から先行して実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な地域、大学からの参加学生と共同学習をする機会をもつことができる。 ●移動のコストなどがからない。
3 ハイブリッド・プログラムの実施	上記の1または2に関して、短期間の対面共同学習を取り入れるものを想定している。事前学習と事後学習をオンラインで実施することで、短期対面共同学習の効果を高めることを狙いとする。	<ul style="list-style-type: none"> ●短期であっても、前後にオンライン共同学習を実施することで、学習成果を最大化することができる。 ●短期での研修となるため、セメスター留学に比べて、感染リスクやコストを低く抑えることが可能であり、学生の負担も少なくて済む。 ●東洋大学国際学部国際地域学科では、SFS (Short Term Field Study) を実施してきた実績があり、この経験を活かして、短期でも学習成果の高い授業科目を設定することができる。
4 オンライン国際共同プロジェクト (オンライン模擬国連 (Model UN) など)	オンライン国際学生会議など、学生主体となる活動を取り入れる (たとえば、Curtin大学との合同シンポジウムをオンラインで実施することが検討されている)。このほか、UMAP関係大学、その他の海外提携大学とテーマを決めたオンライン国際会議を実施する。これに加えて、高度な英語力や知識を駆使しておこなう国際共同プログラムを企画、運営する。東洋大学は、これまで競争選抜があり難度の高いプログラムとして、国連コースボランティア、ワシントンセンターにおけるインターンシップなどに学生を派遣し、参加学生はTGL Gold、学長賞などを受賞してきた。今回の新型コロナ禍により、こうしたプログラムが予定どおりに実施されない可能性も出ており、代替プログラムとして、オンラインによる「模擬国連 (Model UN)」などを実施する。模擬国連では、学生自身が各国からの参加学生とすべて英語により準備や会議運営をおこなうため、学習成果、達成感の面でかなり大きな効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> ●留学体験と同等ではないが、海外の学生と共同学習を体験することができる。 ●TGプログラムとしてのポイントを付与できるプログラムが増えることで、留学を経験しなくてもシルバー、ゴールドの水準に到達することも可能となる。

こうした成果については、文献、ジャーナルにおいて発表したことに加えて、国際教育の実務家が集まる会議 (NAFSA, EAIE, APAIE) などでも発表された。特に日本国内では、国際教育夏季研究大会 (SIIIEJ: Summer Institute on International Education, Japan) において集中的に成果発表が行われた。

<https://siej.org/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 Yukiko Shimmi, Hiroshi Ota, Akinari Hoshino	4. 巻 107
2. 論文標題 Internationalization of Japanese Universities in the COVID-19 Era	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 39-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 太田浩	4. 巻 24
2. 論文標題 高等教育国際化の未来 ポストコロナの国際教育交流を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 111-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hanada Shingo, Knight Jane, Ota Hiroshi	4. 巻 34
2. 論文標題 International program and provider mobility in Japan: policies, activities and challenges	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan Forum	6. 最初と最後の頁 221 ~ 247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09555803.2021.1961842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 太田浩	4. 巻 638
2. 論文標題 パンデミック下とポストコロナの国際教育交流を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Williams James H., Brehm Will, Kitamura Yuto	4. 巻 23
2. 論文標題 Measuring what matters? mapping higher education internationalization in the Asia?Pacific	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Comparative Education and Development	6. 最初と最後の頁 65 ~ 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJCED-10-2020-0071	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田一雄	4. 巻 638
2. 論文標題 ウィズコロナ時代における国際高等教育の新たな展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE : 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 14 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦沢真五	4. 巻 NO.393-394
2. 論文標題 転換期の教育交流と国際教育の将来像 コロナ禍における教育交流のパラダイムシフト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学時報	6. 最初と最後の頁 pp.64-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦沢真五, 橋本美奈	4. 巻 489
2. 論文標題 グローバルキャンパスはデジタル化から (第10回異見交論)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文部科学教育通信 ジアース教育新社	6. 最初と最後の頁 pp.4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ota Hiroshi, Poole Gregory, Ashizawa Shingo	4. 巻 -
2. 論文標題 Curricula: International Higher Education (Japan)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bloomsbury Education and Childhood Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5040/9781350996311.0011	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Poole Gregory, Ota Hiroshi, Ashizawa Shingo	4. 巻 -
2. 論文標題 Globalization in Higher Education (Japan)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bloomsbury Education and Childhood Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5040/9781350996311.0012	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morley Louise, Roberts Paul, Ota Hiroshi	4. 巻 82
2. 論文標題 The affective assemblage of internationalisation in Japanese higher education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 765 ~ 781
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10734-020-00593-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 新見 有紀子、星野 晶成、太田 浩	4. 巻 120
2. 論文標題 ポストコロナに向けた国際教育交流 ~ 情報通信技術 (ICT) を活用した新たな教育実践より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 pp. 26-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Williams James H., Brehm Will, Kitamura Yuto	4. 巻 23
2. 論文標題 Measuring what matters? mapping higher education internationalization in the Asia?Pacific	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Comparative Education and Development	6. 最初と最後の頁 65 ~ 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJCED-10-2020-0071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sekiyama Takashi	4. 巻 11
2. 論文標題 The Impact of the Fourth Industrial Revolution on Student Mobility from the Perspective of Education Economics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Creative Education	6. 最初と最後の頁 435 ~ 446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/ce.2020.114031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Poole Gregory, Ota Hiroshi, Ashizawa Shingo	4. 巻 -
2. 論文標題 Trends in Higher Education (Japan)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bloomsbury Education and Childhood Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5040/9781350996304.0004	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ashizawa Shingo, Poole Gregory, Ota Hiroshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Professional Development in Higher Education (Japan)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bloomsbury Education and Childhood Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5040/9781350996304.0003	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fredriksson Ulf, N. Kusanagi Kanako, Gougoulakis Petros, Matsuda Yaka, Kitamura Yuto	4. 巻 12
2. 論文標題 A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1123 ~ 1123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su12031123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 塚田亜弥子, 太田浩	4. 巻 212
2. 論文標題 韓国的高等教育改革と留学生政策	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 64 ~ 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚田亜弥子, 太田浩	4. 巻 57
2. 論文標題 日韓における留学生10万人達成と留学生政策 - 留学生受入れにおける量と質の両立を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 89 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田浩	4. 巻 48
2. 論文標題 政府主導による外国留学支援政策に関する比較分析 - 米国と豪州の事例から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 異文化間研究	6. 最初と最後の頁 18 ~ 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimmi Yukiko, Ota Hiroshi	4. 巻 94
2. 論文標題 "Super-Short-Term" Study Abroad in Japan: A Dramatic Increase	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 13~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6017/ihe.2018.0.10559	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Kazuo, Sugimura, Miki, Kitamura, Yuto and Asada, Sarah	4. 巻 -
2. 論文標題 Internationalization of Higher Education and Student Mobility in Japan and Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Background paper prepared for the 2019 Global Education Monitoring Report	6. 最初と最後の頁 1~57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣里恭史	4. 巻 209
2. 論文標題 岐路に立つラオスの高等教育改革 (アジアの高等教育事情: ダイナミック・アジアIIー)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 54~57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芦沢真五	4. 巻 12月号 (596号)
2. 論文標題 国際化への政策課題とその趨勢 大学国際化の30年を振り返る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 pp.10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新見有紀子, 秋庭裕子, 太田浩, 横田雅弘	4. 巻 Vol.74
2. 論文標題 学部レベルの海外留学経験がキャリアにもたらすインパクト - 学位取得目的, 単位取得目的留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果の比較より -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 pp. 14-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣里恭史	4. 巻 第209号
2. 論文標題 岐路に立つラオスの高等教育改革	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 pp.54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細野衛士, 岡野栄之, 黒田一雄, 今村正治, 秋山訓子	4. 巻 第21号
2. 論文標題 私が思う大学のグローバル化とは? - これからの私立大学の進むべき道、職員の役割とは - (2016年度研究会20周年記念プレシンポジウム)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学行政管理学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.3-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ashizawa, Shingo	4. 巻 -
2. 論文標題 Educational mobility and the role of UMAP in the Asia-Pacific region	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Internationalisation of Higher Education, International Association of Universities [IAU]	6. 最初と最後の頁 pp. 95-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Edwards, D. Brent, Jr., Okitsu, Taeko, Dacosta, Romina and Kitamura, Yuto	4. 巻 Vol.62, No.1
2. 論文標題 Organizational Legitimacy in the Global Education Policy Field: Learning from UNESCO and the Global Monitoring Report	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Comparative Education Review	6. 最初と最後の頁 pp.31-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Edwards, D. Brent, Jr., Okitsu, Taeko, Dacosta, Romina and Kitamura, Yuto	4. 巻 Vol.63, No.3
2. 論文標題 Regaining legitimacy in the context of global governance? UNESOC, Education for All coordination and the Global Monitoring Report	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Review of Education	6. 最初と最後の頁 pp.403-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitamura, Yuto	4. 巻 -
2. 論文標題 Global Citizenship Education in Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insiders' Views into a Changing System	6. 最初と最後の頁 pp.61-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kitamura, Yuto	4. 巻 -
2. 論文標題 Education for Sustainable Development in Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Education	6. 最初と最後の頁 pp.1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Watabe, Yuki	4. 巻 No. 7
2. 論文標題 Mapping Internationalization of Japanese Universities: Goals, Strategies, and Indicators	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Briefs for Higher Education Leaders	6. 最初と最後の頁 pp. 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiyama, Takashi	4. 巻 9
2. 論文標題 Do Asia-Pacific Region Universities Need a Recognition Framework for Foreign Educational Credentials? Implications of Survey Data from Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Creative Education	6. 最初と最後の頁 pp.368-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/ce.2018.93026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計66件 (うち招待講演 33件 / うち国際学会 51件)

1. 発表者名 太田 浩・星野 晶成・新見 有紀子
2. 発表標題 ポストコロナに向けた国際教育交流 ICTを活用した新たな教育実践並びに国際教育交流の可能性と方向性を考える
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 コロナ禍で変わる国際教育交流と留学：現状と展望
3. 学会等名 第25回渡航医学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinari Hoshino, Yukiko Shimmi, and Hiroshi Ota
2. 発表標題 International Education and ICT During and Post COVID-19: Japan ' s Experiences and Perspectives
3. 学会等名 The 4th World Council of Comparative Education Societies (WCCES) Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda and Kyuwon Kang
2. 発表標題 Prospecting Asian Regional Cooperation in Higher Education
3. 学会等名 The PKU Waseda Joint Workshop 2021 organized by Peking University and Waseda University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Comparative and International Education
3. 学会等名 The 16th International Conference on Humanities and Social Sciences organized by Khon Kaen University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Asian Comparative Education Crossing Borders
3. 学会等名 WCCES Symposium Japan Comparative Education Society (JCES) Session (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田一雄
2. 発表標題 地域的ネットワーク型協力の意味を考える
3. 学会等名 国際協力機構主催JICA教育協力ウィーク「大学ネットワークを活かした互恵的な連携強化」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Asian Regional Cooperation of Higher Education; How can the Chinese and Japanese universities collaboratively contribute to the development of a community with a shared future for mankind?
3. 学会等名 Xiamen University Humanities and Social Sciences International Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 芦沢真五
2. 発表標題 コロナ禍で問われる国際教育の意義～変革期の大学と教職員のあり方を考える～
3. 学会等名 令和2年度筑波大学オンラインSDセミナー(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shingo Ashizawa
2. 発表標題 The Future of Intercultural Learning: Advancing Inclusive Global Higher Education after COVID
3. 学会等名 AIEA 2021 Annual Conference (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shingo Ashizawa
2. 発表標題 The Future of Intercultural Learning: Advancing Inclusive Global Higher Education after COVID
3. 学会等名 AIEA 2021 Annual Conference (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shingo Ashizawa
2. 発表標題 UKM-AKEPT Global Talk Series : Webinar Edition 1 Embracing the New Normal in International Higher Education
3. 学会等名 UKM-AKEPT GLOBAL TALK SERIES : Webinar Edition 1 EMBRACING THE NEW NORMAL IN INTERNATIONAL HIGHER EDUCATION (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星野晶成、新見有紀子、太田浩
2. 発表標題 コロナ禍での国際教育交流の課題と方策を考える
3. 学会等名 異文化間教育学会会員企画オンラインセミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akinari Hoshino, Yukiko Shimmi, Hiroshi Ota
2. 発表標題 The New Frontier of Study Abroad from Japan: Policies, Impact, and Program Development for Non-traditional Programs
3. 学会等名 The Forum 's 17th Annual Conference, Evolution and Revolution: Solutions in Action (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 国際化のこれまでとコロナ禍における国際教育交流の現状
3. 学会等名 Springer Natureオンラインセミナーシリーズ：ウィズコロナの図書館運営 - 大学の国際化、これまでとこれから（パート1）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 これからの国際教育交流海外事例や新しい試み、そして図書館に求められる支援とは
3. 学会等名 Springer Natureオンラインセミナーシリーズ：ウィズコロナの図書館運営 - 大学の国際化、これまでとこれから（パート2）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 コロナで変わる国際教育
3. 学会等名 IIGE Training Series -Fall 2020 Moving Forward: Shaping the New Reality of Online International Education（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Ota
2. 発表標題 How will study abroad and student exchange evolve during and after COVID-19?
3. 学会等名 Special Talk, Western Michigan University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Regional Report: Internationalization of Japanese Higher Education in the Post- COVID19 Pandemic Era
3. 学会等名 Asia-Pacific Association for International Education (APAIE) 2021 Virtual Event (Annual Conference) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Opportunities and Challenges for International Affairs Schools in Asia - How is international affairs education changing in the region, especially during the pandemic?
3. 学会等名 Association of Professional Schools of International Affairs (APSIA) Deans and Directors Meeting (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Regional Governance and Cooperation of Higher Education in Northeast and Southeast Asia
3. 学会等名 2020 Online Forum on Education Cooperation in South & Southeast Asia organized by Yunnan Provincial Department of Education, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 International Higher Education in the Post- Corona World
3. 学会等名 RECSIE Special Webinar Series: What can we do? International education during the Covid-19 pandemic (Online) Series V : Covid-19 and Paradigm Shift of International Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 芦沢 真五
2. 発表標題 グローバル人材育成と学習成果分析
3. 学会等名 JACET関東支部・東洋大学共催講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shingo Ashizawa, Randall Martin, Taiji Hotta, Lee Sternberger
2. 発表標題 Leveraging Consortia in Rethinking Internationalization: Lessons from Networks in Asia-Pacific
3. 学会等名 AIEA 2020 Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Globalization and the Development of Global Governance of Education - A Typology of Approaches
3. 学会等名 The 63rd Annual Conference of Comparative and International Education Society (CIES)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Internationalization and Formulation of Technological Hubs for Regional Economic Development
3. 学会等名 The 2nd Guangdong-Hong Kong-Macau Great Bay Area International Higher Education Forum and the 2019 conference on Higher Education, Regional Innovation and Economic Growth（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuo Kuroda
2 . 発表標題 Pathways for SDG Goal 4: How Korea and Japan can Cooperate to Prospect the Future?
3 . 学会等名 The 4th International Symposium on Development Cooperation and Evaluation (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuo Kuroda
2 . 発表標題 International Students Mobility and Japan ' s Policy and Initiatives
3 . 学会等名 Old and New Diversities Network, University of Birmingham European Hub (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuo Kuroda
2 . 発表標題 Globalization and the Development of Global Governance of Education: Historical Development and Prospects for the Future
3 . 学会等名 International Conference on Re-imagining International Educational and Cultural Relations for Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kuroda, Kazuo
2 . 発表標題 Cross-border Collaborative Degree Programs in Asia- Implications from JICA RI conducted survey for 1000 programs
3 . 学会等名 APAIE (Asia Pacific Association for International Education) Annual Conference and Exhibition in Kuala Lumpur (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Kuroda, Kazuo
2. 発表標題 Global and Regional Governance of Education: A Case of International Diffusion of “Inclusion” Concept
3. 学会等名 EU Japan Forum 2019 at Institut d'etudes Europeennes, Universite Libre de Bruxelles (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kuroda, Kazuo
2. 発表標題 Regional Governance and Cooperation of Higher Education in Asia
3. 学会等名 Inauguration Ceremony of the University Consortium of 21st Century Maritime Silk Road and University President's Forum at Xiamen University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田浩, 新見有紀子, 秋庭裕子
2. 発表標題 長期留学(学位取得目的)と短期留学(単位取得目的等)の効果・学習成果の比較分析
3. 学会等名 異文化間教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Recruiting Students from Japan: Recent Trends of and Government Initiatives for Study Abroad
3. 学会等名 NAFSA 2018 Annual Conference & Expo (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 International Education and University (Undergraduate) Education in Japan
3. 学会等名 Transformation of Undergraduate Education under Globalization: A Trial for the Global Studies of Higher Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 IPPM (International Program and Provider Mobility) and Japan
3. 学会等名 Higher Education in Asia and IPPM (International Program and Provider Mobility) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sekiyama, Takashi
2. 発表標題 A Potential Platform for Promoting Outbound Canadian Student Mobility in the Asia-Pacific Region
3. 学会等名 BCCIE Summer Conference 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 National Policies as Drivers of Internationalization in Russia, Brazil, and Japan “Strategic Internationalization and Government Initiative in Japan”
3. 学会等名 NAFSA 2018 Annual Conference & Expo (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 Next Generation Employability: Strategic Approach towards Employability of students in Japan
3. 学会等名 AIEC(Australian International Education Conference) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 University Mobility in Asia and the Pacific (UMAP) and Canada: New Opportunities for Canadian HEIs
3. 学会等名 CBIE(Canadian Bureau for International Education) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 University Mobility Networks in Asia and the Pacific; Trends and Future Agenda
3. 学会等名 AIEA Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芦沢真五
2. 発表標題 Eポートフォリオを使った学習成果分析について
3. 学会等名 文部科学省後援、河合塾・東洋大学共催シンポジウム「カリキュラムデザインと事前・事後学習から見た、学生を伸ばす留学・海外プログラム」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 Mobility, Internationalization, Higher education: Asian Challenges and Way Forward
3. 学会等名 APAIE annual conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 UMAP and Its Innovative Approach as Multilateral Consortia
3. 学会等名 APAIE annual conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 Nurturing Diversity Amongst Students: The Importance of Internationalization Programs
3. 学会等名 APAIE annual conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田浩
2. 発表標題 日本の留学生政策をめぐる現状と課題
3. 学会等名 異文化間教育学会第39回大会特定課題研究・公開研究会：政策的視点からの異文化間教育研究 課題と展望（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中祐輔
2. 発表標題 日本語教育における『外国語学習のめやす』の課題と展望
3. 学会等名 「外国語学習のめやす」実践サポート会合
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 The Future of Regional Cooperation and Student Mobility
3. 学会等名 APAIE annual conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 University Mobility Networks in Asia: What are they good for?
3. 学会等名 APAIE annual conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 Global dialogue: how is international education responding to the rise of nationalism around the world?
3. 学会等名 Australian International Education Conference (AIEC) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ashizawa, Shingo
2. 発表標題 Student Mobility and Credit Transfer in Asia and the Pacific
3. 学会等名 2017 APQN Annual Conference (AAC) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hanada, Shingo
2. 発表標題 A Mixed Methods Study of the Impact of Study Abroad Programs on Intercultural Competence
3. 学会等名 Society for Intercultural Education Training and Research (SIETAR) USA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hanada, Shingo
2. 発表標題 Assessing the Impacts of Study Abroad Programs through Mixed Method Research.
3. 学会等名 NAFSA 2017 Annual Conference & Expo (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirosato, Yasushi
2. 発表標題 Regionally Aligned" Student Mobility: A Key Domain for Indicators of Higher Education Internationalization
3. 学会等名 学会等名 2nd Stakeholders Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kitamura, Yuto, Williams, James H. and Brehm, William
2. 発表標題 Internationalization of Higher Education in Asia-Pacific: Toward a Mapping of Indicators and Their Utilization
3. 学会等名 Second Stakeholders Meeting on Indicators for Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kuroda, Kazuo
2. 発表標題 Global Education Governance for the SDG 4- Prospecting EU-Japan Partnership
3. 学会等名 EU Japan Forum 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Trends and Policies of Internationalization in Japanese Higher Education -How "we" have survived-
3. 学会等名 The 20th Korean Association of International Educators (KAIE) Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Monitoring and Enhancing Internationalization Efforts: Case of Japan
3. 学会等名 The 29th Annual EAIE Conference and Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi
2 . 発表標題 The Accessibility of English-taught Degree Programs in Japan: Examining International Admissions Procedures
3 . 学会等名 The 22nd Annual Conference of Japan Association for International Student Education
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ota, Hiroshi
2 . 発表標題 Monetary and Non-monetary Benefits Brought About by Study Abroad for a Degree
3 . 学会等名 AAS (Association for Asian Studies)-in-ASIA 2017 Conference (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ota, Hiroshi
2 . 発表標題 How Accessible are English-Taught Programs?: Exploring International Admissions Procedures
3 . 学会等名 The 53rd Annual Conference of Japan Comparative Education Society
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ota, Hiroshi
2 . 発表標題 Challenges and Solutions: U.S.-Japanese Partnerships
3 . 学会等名 NAFSA 2017 Annual Conference & Expo (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Ota, Hiroshi
2. 発表標題 Who is an International Student and Who is a Study Abroad Student?: Case of Japan
3. 学会等名 NAFSA 2017 Annual Conference & Expo (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sekiyama, Takashi
2. 発表標題 A Common Platform for Promoting Student Mobility in the Asia-Pacific Region
3. 学会等名 Canadian Bureau for International Education 2018 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiyama, Takashi
2. 発表標題 A Common Platform for Promoting Student Mobility in the Asia-Pacific Region
3. 学会等名 APEC The 6th Conference on Cooperation in Higher Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sekiyama, Takashi
2. 発表標題 Demands for Foreign Credential Evaluation (FCE) and National Information Centers (NIC)- Implications from a Case of Japan
3. 学会等名 UNESCO 2nd Regional Capacity Building Workshop on the Recognition of Higher Education Qualifications in Asia Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 河合塾編、芦沢真五・井上雅裕・太田浩・友野伸一郎・深堀聰子・村澤昌崇・村山賢哉・野吾教行著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 240
3. 書名 学生を成長させる海外留学プログラムの設計	

1. 著者名 Shingo Ashizawa and Deane E. Neubauer	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 254
3. 書名 Student and Skilled Labour Mobility in the Asia Pacific Region: Reflecting the Emerging Fourth Industrial Revolution (International and Development Education)	

1. 著者名 Yuto Kitamura and Will Brehm	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Asian Productivity Organization	5. 総ページ数 166
3. 書名 Public Policy Innovation for Human Capital Development	

1. 著者名 芦沢真五	4. 発行年 2019年
2. 出版社 プレジデント社	5. 総ページ数 248
3. 書名 「グローバル協働時代の外国人材の活かし方」トククス・バジル著『日本のグローバル化は“日本語”からはじめなさい』	

1. 著者名 Poole, Gregory, Ota, Hiroshi, Kawano, Mako	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Oxon: Routledge	5. 総ページ数 28
3. 書名 "Tracing the Developments of the "Global Education Effect" in Japanese Higher Education: Discourses, Policy, and Practice," In N. M. Doerr (Ed.), The Global Education Effect and Japan	

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Shimmi, Yukiko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Oxon: Routledge	5. 総ページ数 14
3. 書名 "Recent Trends in Learning Abroad in the Context of a Changing Japanese Economy and Higher Education Situation," In R. Coelen & C. Gribble (Eds.), Internationalization and Employability in Higher Education	

1. 著者名 Yuto Kitamura, Jing Liu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Oxon, UK: Routledge	5. 総ページ数 12
3. 書名 "The Role of Universities in Promoting Sustainability in Asia" in Zhong, Z., Coates, H. and Shi, J. (eds.). Innovations in Asian Higher Education	

1. 著者名 北村友人・梅宮直樹・大澤亜希	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 14
3. 書名 「カンボジアの大学教授職の現状と課題」有本章編『大学教授職の国際比較 - 世界・アジア・日本 - 』	

1. 著者名 萱島 信子、黒田 一雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 448
3. 書名 日本の国際教育協力	

1. 著者名 Yonezawa, Akiyoshi, Kitamura, Yuto, Yamamoto, Beverly and Tokunaga, Tomoko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 306
3. 書名 Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions	

1. 著者名 Kitamura, Yuto, Omomo, Toshiyuki and Katsuno, Masaaki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 241
3. 書名 Education in Japan : a comprehensive analysis of education reforms and practices	

1. 著者名 芦沢真五	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 23
3. 書名 『実践編 Eポートフォリオ学習成果分析と世代間交流～GJ5000プロジェクトと「留学のすすめ.jp」～』 『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 太田浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 27
3. 書名 「日本の海外留学促進政策の変遷」『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 北村友人, 興津妙子, 山崎瑛莉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 22
3. 書名 「教育におけるSDGs - 『量』から『質』への転換と課題 - 」蟹江憲史編著『持続可能な開発目標とは何か - 2030年へ向けた変革のアジェンダ - 』	

1. 著者名 黒田一雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 14
3. 書名 「国際的市民意識形成に対する留学のインパクト」『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 新見有紀子, 渡部由紀, 秋庭裕子, 太田浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 16
3. 書名 留学による意識と能力の変化～学部留学のインパクト～」『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 新田功, 河村基	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 17
3. 書名 『留学経験と生活満足度～留学経験者データの共分散構造分析～』『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 花田真吾	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 18
3. 書名 『留学効果分析のアプローチ～異文化適応力をテーマに～』『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト 大規模調査による留学の効果測定』	

1. 著者名 Ota, Hiroshi & Horiuchi, Kiyomi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 22
3. 書名 How Accessible are English-Taught Programs? Exploring International Admissions Procedures," In A. Bradford & H. Brown (Eds.), English-Medium Instruction in Japanese Higher Education	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀田 泰司 (Hotta Taiji) (40304456)	広島大学・森戸国際高等教育学院・教授 (15401)	
研究分担者	芦沢 真五 (Ashizawa Shingo) (00359853)	関西国際大学・国際コミュニケーション学部・教授 (34526)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北村 友人 (Kitamura Yuto) (30362221)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	黒田 一雄 (Kuroda Kazuo) (70294600)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・教授 (32689)	
研究分担者	廣里 恭史 (Hirosato Yasushi) (40262927)	上智大学・グローバル教育センター・教授 (32621)	
研究分担者	小幡 浩司 (Kobata Koji) (40728292)	福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(総合グローバル)・教授 (13401)	
研究分担者	新田 功 (Nitta Isao) (30208251)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	太田 浩 (Ota Hiroshi) (70345461)	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・教授 (12613)	
研究分担者	関山 健 (Sekiyama Takashi) (90583576)	京都大学・総合生存学館・准教授 (14301)	
研究分担者	花田 真吾 (Hanada Shingo) (00635865)	東洋大学・国際学部・准教授 (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	小早川 裕子 (Kobayakawa Yuko) (90459842)	東洋大学・国際教育センター・准教授 (32663)	
研究 分担者	水松 巳奈 (Mizumatsu Mina) (30726211)	東洋大学・国際教育センター・講師 (32663)	
研究 分担者	田中 祐輔 (Takaka Yusuke) (10707045)	東洋大学・国際教育センター・准教授 (32663)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	二宮 皓 (Ninomiya Akira)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ: Summer Institute on International Education, Japan) プレイベント特別セッション1「ワクチン接種拡大と学生交流：英語圏諸国の留学生受入れ最新情報」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ: Summer Institute on International Education, Japan) 基調講演「国際教育交流の新しい展開と価値の創造」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ: Summer Institute on International Education, Japan) 特別セッション2 New Trends in Inter-University Collaboration in the Asia Pacific Region	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 RIHED SEA-HiEd Inter-Regional Research Symposium	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 UMAP International Forum 2018: Student Mobility in the Asia-Pacific Region and Japan's Role	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際共同セミナー：「アジアの高等教育とIPPM」Higher Education in Asia and IPPM (International Program and Provider Mobility)	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 Trends and Prospects of Student Mobility and Support in the Asia-Pacific Region	開催年 2017年～2017年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------